写真にスマホをかざすと発表会の動画が見える！ＡＲ学級通信

松山市立北久米小学校　教諭（現所属：松山市教育研修センター 指導主事）　小田 浩範

キーワード：スマートフォン，ＡＲ，マチアルキ，生活科，町探検，家庭

実践の概要

生活科「町のすてき発表会」の様子を保護者に発信するため、記事の写真にスマートフォンをかざすと発表している動画が再生される、ＡＲ学級通信を作成し、配布した。生き生きとした子どもたちの様子を保護者と共有するとともに、子どもたちも学びを深めることができた。

１．目的・目標

(1) 子どもたちの様子を保護者等に発信する

発表会を参観日ではない日に行ったため、一生懸命準備や練習に取り組んできた発表会の様子を保護者等に発信することを目的とした。ＡＲ学級通信という方法を使うと、紙媒体の学級通信を配布するだけで、家庭にあるスマートフォンで動画を視聴することができ、紙媒体だけでは伝えきれない子どもの姿を保護者に伝えることができると考えた。

(2) 子どもたちが発表の様子を家族と一緒に振り返る

子どもたちが保護者と一緒に動画を見ることで、客観的に自分たちの発表を振り返ることを目的とした。動画を媒体に説明したり感想を伝え合ったりする等、保護者と対話をしていくことで、さらに学びを深めることができると考えた。

２．実践内容

2.1 実践について

本実践は、今や多くの家庭に普及しているスマートフォンやタブレット端末を利用した、新しい情報発信の方法を提案するものである。

これまで、家庭に子どもたちの活動の様子を発信する場合、参観日等で来校してもらう、紙媒体で学校だより等を配布する、学校Ｗｅｂで発信する、といった方法があった。しかし、来校してもらうには時間的・距離的な制約があり、来てもらえる人が限られている。また、紙媒体での発信では、様子を伝えることはできるが、動画ほど詳細に伝えることはできない。学校Ｗｅｂでの発信は、不特定多数が閲覧するために、掲載できる情報が限られており、内容的な制約が大きい。

本実践で活用したのは、東京書籍「マチアルキー自分でつくれるＡＲアプリケーションー」である。登録した画像にアプリを入れたスマートフォンやタブレット端末をかざすと、画像を認識し、登録した動画コンテンツをＡＲで視聴できるものである。画像が動画再生のキーとなる上に、パスワード付きで公開設定をすることができるので、不特定多数に見られる心配がない。しかも、学校から配布するのは、従来どおりの紙媒体の学級通信のみである。ＡＲ学級通信は、学校と家庭とをつなぐ新たな方法になり得るのではないかと考える。

本実践を通して、ＡＲ学級通信は大変有効であった。それは、そこに至るまでの充実した学びの上にＡＲ学級通信を活用したからだと考える。

2.2 授業の様子

(1) 町探検

写真１　町探検の様子

探検したい方面別に４～５人グループになり、探検場所や質問したいことを相談し、計画を立てた。探検当日、「たくさん町のすてきを見つけよう」を合言葉に、子どもたちはボランティアの保護者とともに、多くの人とふれ合いながら探検を行った。温泉で足湯をさせてもらったり、握手してもらったりと、地域の人のあたたかさにふれ、地域のよさを感じながら探検をすることができた（写真１）。

(2) 発表の計画

町探検で見つけた「すてき」を紹介し合おうと、ホワイトボード上で思考ツールを使って話し合い、発表の方法や内容について計画を立てた。子どもたちは積極的に意見を出し合い、グループごとに発表の方向性を決めていった。子どもたちが考えた発表方法は、２年生という発達段階でも試行錯誤しやすい紙芝居やペープサートといったアナログ表現が中心であった。

●単元名
「町のすてき大はっ見」
●単元の目標
・町の人々と交流することを通して，自分の町について愛着を高めることができる。
・町の発表会を開き，自分の発見したことや思ったこと、町のよいところについて工夫して表現することができる。
●学習時期と対象
平成 29 年 11～12 月　　２年生　28 名

●単元計画（全体時間 18 時間）

次	学　習　活　動	時間
1	町探検の計画を立てる。質問内容を考える。	4
2	町探検に行く。	3
3	探検を振り返る。お礼の手紙を書く。	1
4	発表の計画を立てる。	2
5	発表の準備・練習をする。	6
6	「町のすてき発表会」を行う。	2
7	ＡＲ学級通信を配布する。	

(3) 発表準備

写真２　発表準備をする様子①

写真３　発表準備をする様子②

話し合ったことをもとにして発表準備を行った。提示する資料や小道具を作成する作業を分担したり相談して新たな方向性を生み出したりしながら、発表に向けて準備を進めていった（写真２）。探検で撮影した写真をタブレット端末からプリントアウトして画用紙に貼って見せられるようにしたり、もらったパンフレットをタブレット端末で撮影して見せたいところを次々と拡大提示できるようにしたりするなど、アナログ表現の中にデジタル的な要素を盛り込む姿も見られた（写真３）。

(4) 発表練習

写真４　発表練習をする様子

準備ができたグループから練習を行った。グループ内で発表役と見る役を交代しながら意見を伝え合ったりタブレット端末で自分たちの発表の様子を撮影し客観的に見て話し合ったりしながら、発表のブラッシュアップを行った。練習しているうちに新たなアイデアが生まれ、道具を増やしたり内容を追加したりするなど、練習と準備とを何度も往復しながら、発表内容を充実させていった（写真４）。

(5) 町のすてき発表会

写真５　発表会の様子

紙芝居、ペープサート、窓枠をテレビ画面に見立てたニュース番組、壁新聞など、グループごとに様々な方法で発表を行った。これまでの準備や練習の成果を存分に発揮し、自信をもって発表する姿が見られた。新学習指導要領解説生活編に示された「言葉、絵、動作、劇化などの方法」で生き生きと表現する姿を、子どもたち自身で実現することができていた（写真５）。後の情報発信に生かすため、発表の様子をタブレット端末で撮影しておいた。

(6) ＡＲ学級通信の配布

撮影した動画を各グループ３分程度に編集した。学級通信の各グループの画像を認識するとＡＲで動画が再生されるように設定し、紙媒体の学級通信を保護者に配布した。（下の写真６はスマートフォンの画面の一部。外側の部分は、カメラを通して映っている紙媒体の学級通信。中心部分が、ＡＲで再生されている動画。）冬休み直前に配布したので、祖父母等にも紹介した家庭が多くあった。保護者から「頑張っている様子が見られて嬉しかった」「一緒に見て親子で話すきっかけになった」「自分の発表の様子を見て、自信がついたり次への改善点に気付いたりしていた」「参観日に行く機会のない家族も学校の様子を見ることができてよかった」等の感想が届いた。子どもたちは家庭で保護者と一緒に振り返り、頑張りを認めてもらったり感想を伝え合ったりして自信を深めた様子だった。

写真６　動画が再生されている様子

３．成果

時間的・距離的・内容的な制約にとらわれず発信することができ、生き生きとした子どもたちの様子を、保護者や遠方に住んでいる祖父母等と共有することができた。また、ボランティアで一緒に探検に行った保護者に、その後の学びを届けることにもつながった。保護者から多くの感想が寄せられたり、保護者との話のきっかけになったりしたことで、学校と保護者との距離が近くなったように感じられた。

また、子どもたちが自分たちの発表の様子を見て振り返ることで、自分たちの頑張りや成長を客観的に見つめることができた。また、動画が子どもと保護者の会話のきっかけになるとともに、動画を媒体に説明したり感想を伝え合ったりすることで、さらに学びを深めることにつながった。このように、自然な形で保護者を巻き込みながら、子どもたちの学びの場を家庭へと広げていくことができた。